

Kirei Lifestyle Plan –花王のESG戦略– 103-1,103-2,103-3

中長期目標

19の重点取り組みテーマには、それぞれ中長期目標が設定されています。

中長期目標に基づき、各部門で事業活動に沿った小目標を策定し、2019年から計画に基づく活動をスタートしました。なお、一部の中長期目標については、評価方法の見直しや再検討、実績収集体制の構築に時間を要したため、2019年の目標および実績を提示できませんでした。そのような目標につきましては、表中に開示見込み時期を記載しました。



→解説はP202「Kirei Lifestyle Plan 中長期目標 解説」

19の重点取り組みテーマの中長期目標

重点取り組みテーマ	指標	2019年実績	中長期目標			SDGs
			目標値	目標年	基準年	
快適な暮らしを自分らしく送るために						
コミットメント	より清潔で、健康に、安心して年齢を重ね、自分らしく生きられるように、よりこころ豊かな暮らしに貢献した人数	2021年開示予定 ^{※1}	10億人	2030	—	3,5,6,10,12,14,17,
QOLの向上	快適で、美しく、すこやかな暮らしに貢献し、こころに響く新製品・改良品の比率	2021年開示予定 ^{※1}	100%	2030	—	3,5,12,17
清潔で美しくすこやかな習慣	花王の製品やサービスを使い、清潔で美しくすこやかな習慣を身につけるための啓発活動のカバー率(範囲:対象ターゲット)	2021年開示予定 ^{※1}	100%	2030	—	3,6,17
ユニバーサル プロダクト デザイン	花王ユニバーサルデザインガイドラインに適合する新製品、改良品の比率	44%	100%	2030	—	10,12,17
より安全でより健康な製品	設定した懸念成分を対象に、花王の考え方を開示した比率	2021年開示予定 ^{※1}	100%	2030	—	3,12,14,17
思いやりのある選択を社会のために						
コミットメント	より活力と思いやりのある社会の実現のために、小さくても意味のある選択を生活者ができるように提案したブランド比率	2021年開示予定 ^{※1}	100%	2030	—	4,8,9,10,11,12,13,15,17
サステナブルなライフスタイルの推進	サステナブルなライフスタイルを実現する情報、情報ツールの提供、および啓発・対話活動を実施しているブランド比率(範囲:対象ターゲット)	2021年開示予定 ^{※1}	100%	2030	—	4,11,12,17
パーパスドリブンなブランド	社会的課題に対応し、生活者の暮らしや社会で共感を得られる、存在意義のあるブランドの比率	2021年開示予定 ^{※1}	100%	2030	—	12,17
暮らしを変える製品イノベーション	ライフスタイルに大きく、ポジティブなインパクトを与える製品の提案	2件	10件以上	2030	—	9,12,13,17
	サステナブルガイドラインに適合した新製品・改良品数の比率	2021年開示予定 ^{※1}	100%	2030	—	
責任ある原材料調達	家庭用製品に使用した認証紙製品・パルプの比率	91%	100%	2025	—	8,10,12,15,17
	小規模パーム農園までのトレーサビリティ確認	大手プランテーションまで完了	完了	2030	—	

※1 2019年詳細要件の検討実施

※2 2019年データ収集の体制構築

※3 2019年詳細要件の検討実施、2020年データ収集の体制構築を予定

自分らしく送るために
快適な暮らしを

思いやりのある選択を
社会のために

よりすこやかな
地球のために

正道を歩む

Kirei Lifestyle Plan –花王のESG戦略– 103-1,103-2,103-3

重点取り組みテーマ	指標	2019年実績	中長期目標			SDGs
			目標値	目標年	基準年	
よりすこやかな地球のために						
コミットメント	全ライフサイクルにおいて、科学的に地球が許容できる範囲内の環境フットプリントである製品比率	2021年開示予定※1	100%	2030	—	3,6,7,12,13,14,15,17
	外部評価機関による評価レベル	CDP 気候変動A、水A、森林(木材)A、森林(パーム油)A	最高レベル	毎年	—	3,6,7,12,13,14,15,17
脱炭素	ライフサイクルCO ₂ 排出量(絶対量)削減率	4%	22%	2030	2017	7,12,13,17
	スコープ1+2 CO ₂ 排出量(絶対量)削減率	9%	22%	2030	2017	
ごみゼロ	革新的なフィルム容器の年間普及量(花王+社外)	2021年開示予定※2	3億個	2030	—	12,14,15,17
	廃棄物量(全拠点から排出し、リサイクルされないもの)	2021年開示予定※2	ゼロ	2030	—	
水保全	ライフサイクル水使用量(原単位)削減率	6%	10%	2030	2017	6,12,15,17
	湯水地域におけるライフサイクル水使用量(原単位)削減率	2021年開示予定※1	40%	2030	2017	
大気および水質汚染防止	VOC、COD 排出量を開示する工場の比率	VOC 0%、COD 100%	100%	2025	—	3,6,12,14,17
正道を歩む						
実効性のあるコーポレートガバナンス	外部評価機関による評価レベル	最高レベル(「World's Most Ethical Companies」選定)	最高レベル	毎年	—	8,16
	重大なコンプライアンス違反*件数 *経営に重大な影響を与え、企業価値を大きく毀損するコンプライアンス違反案件をいう	ゼロ	ゼロ	毎年	—	
徹底した透明性	成分情報が簡単に入手できる製品比率(家庭用製品)	2021年開示予定※1	100%	2030	—	8,12,16,17
人権の尊重	人権デュー・ディリジェンス対応実施率(社内、サプライヤー、委託先におけるリスクアセスメント)	社内100%、サプライヤー20%、委託先0%	100%	2030	—	5,8,10,17
受容性と多様性のある職場	社員の声・社員意識調査「Find」の「受容性と多様性に関する設問」における肯定的回答率	Find実施せず	75%	2030	—	5,8,10
	女性管理職比率	29.4%	全社員女性比率に同じ	2030	—	
社員の健康増進と安全	休業災害度数率(100万時間当たり)	0.78	0.1	2030	—	3,8
	平均長期休業日数(日/人) ※日本から開始	129	105	2030	—	
	長期休業者率(千人率) ※日本から開始	0.198	0.12	2030	—	
人材開発	社員の声・社員意識調査「Find」の「人材育成の仕組み・風土」における肯定的回答率	Find実施せず	75%	2030	—	3,4,5,8,10
	社員の声・社員意識調査「Find」の「会社/仕事への満足」における肯定的回答率	Find実施せず	75%	2030	—	
責任ある化学物質管理	安心して使い続けられる製品・原料の有用性と安全性情報の公開率	2022年開示予定※3	100%	2030	—	3,6,12,14,17
	事業拠点において、原材料調達から廃棄までを考慮し、健康・環境・安全への影響を管理できた比率	2022年開示予定※3	100%	2030	—	

※1 2019年詳細要件の検討実施

※2 2019年データ収集の体制構築

※3 2019年詳細要件の検討実施、2020年データ収集の体制構築を予定